

B型肝炎ワクチンを受けましょう

—2016年改訂版—

What's new?

2016年10月1日から**B型肝炎ワクチンが定期接種**となります。

定期接種の対象者は2016年4月1日以降に生まれた1歳未満のお子さんです。

しかし、B型肝炎は赤ちゃんだけ注意が必要な感染症ではありません。

したがって定期接種の対象者以外のかたも、できるだけ早期にワクチンを接種しましょう。

B型肝炎ワクチンは世界中のほとんどの国で生まれて初めて接種するワクチンです。1992年にWHO（世界保健機構）は全ての国にB型肝炎ワクチンを定期接種化するように勧告しました。その結果2013年の時点で世界188か国で定期接種となっています。

日本でも年間1万人程度がB型肝炎ウイルスに感染しているといわれており、ワクチン接種による感染予防が重要です。

B型肝炎ウイルスに感染するとどうなるの？

B型肝炎は肝臓に炎症を起こすウイルスです。短期間でウイルスが排除されて免疫ができる「一過性の感染」と、持続的にウイルスが残存する「持続性の感染＝キャリア」にわかれます。

このキャリアの10-20%が将来的に肝硬変や肝臓がんを発症するといわれています。

B型肝炎ウイルスにはどうやって感染するの？

B型肝炎の患者またはキャリア（ウイルスの持続感染者）の血液やその他の体液が原因になります。WHOでは以下の4つを主な経路としています。

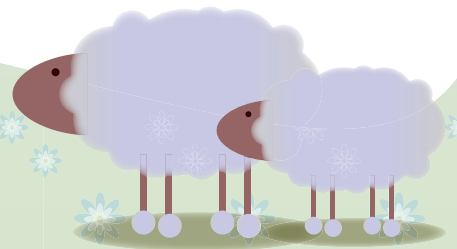
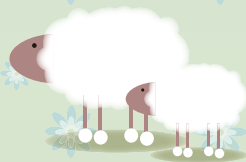
- ① お母さんから赤ちゃんへ
- ② 子ども同士の濃厚な接触（かみつきなど）
- ③ 輸血や不適切な注射針の使用
- ④ 性行為

※②に関しては日本国内でも2002年に保育所で25名の集団感染の報告があります。

日本では1985年から「B型肝炎母子感染防止事業」が始まり、①の「お母さんから赤ちゃんへ」の感染により乳児がキャリアになることは非常少なくなりました。

しかしながら、「一過性の感染」でも症状がでないことも多く（不顕性感染）、また「持続性の感染」でも症状がない（無症候性キャリア）場合、本人の自覚なく周囲にB型肝炎ウイルスをうつしてしまうことがあるため、②～④の経路には注意が必要です。

>>裏面へつづく



B型肝炎ワクチンを受けましょう

いつワクチンを接種すればいいの？

- ①年齢が小さいほどキャリアになりやすい（1歳未満は90%くらい）ため、できるだけ早い時期に接種しましょう。
定期接種では標準的に満2か月から接種開始となっています。
- ②お母さん以外の家族（父や祖父母など）にB型肝炎ウイルスのキャリアがいる場合には生後2か月より早期のワクチン開始が望めます。この場合でも定期接種として接種可能です。医師に相談しましょう。
- ③2016年3月以前に出生された子どもたちは定期接種の対象者ではありません。
ただし、1歳以降でも幼児では30~50%がキャリアになること
および最近では成人でもキャリアになりやすいタイプのB型肝炎ウイルスの感染者が増えていることから、できるだけ早期にB型肝炎ワクチンを接種することが重要です。

ワクチンのスケジュールは？

図の間隔で合計3回の接種が必要です。



注意点：

- 1) 定期接種は満1歳の誕生日の前日までが対象です。したがって3回目の接種終了前に1歳のお誕生日をむかえた場合、3回目は公費での接種はできません。
 - 2) 現在定期接種で定められた接種スケジュールでは、1回目から20週以上経過していれば3回目の接種が接種可能です。したがって1回目から20週が経過していれば、2回目と3回目の間隔は最短6日間で接種できることになります。
- ただし、小児科学会は予防接種の効果やその持続期間を考慮し、2回目と3回目の接種間隔を適切にあげることを勧めています（16-20週）。
- 乳児期後半は風邪をひきやすいため、接種機会を逃さないようにしましょう。

自由が丘メディカルプラザ 小児科
<http://www.jiyugaokamp.com/s>
TEL : 03-5731-3565

2016年10月3日

